

西洋一千四百十八年  
印元和四戊午年

明萬曆四十六年

鑲刻

（距明治二十六年  
即百七十六年）

列莫別  
爾絀所獨度溫烏斯州木譜

翻譯上木事件

田井  
元陳

遺上書奉呈下案

特別

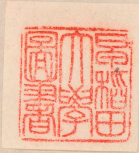
KS

304

8

KS
304
8

遺  
竹  
木  
語  
草  
景



81-0963



得て世を行ひける者なり  
守國院様近年に馬下部水乳御患を延ば  
庵より行ひ華前より納を以成時中より道  
由若事學世上に好む者なり横文字抄讀考  
は考らば能く史中東方の醫學の事を通じ  
作し手書に傳へしもの、彼も困は射理の學法  
手書曲流如し和漢の書に對して是の如く  
手書に抄後傳ひし醫書中仲、りりありし中  
を抄見傳へしもの、綿密の時勢を中綱目  
に、ししししししししししししししししし  
を少りある、筆書を鑑み傳へて後來用ひ別  
草の師もよき格ありし、西名用ひしもの、

筆を腕に、心我、或る者、力なるなり

草の師を去る格あり、由る用ひの事也、信

其多勸修の決心我に或る者を力なきや、  
大指廣し、以力なきを能く、を建出能存、右才世  
上、以別廣く授け、まを、何れ。

此方操りて、以書口可く、能く、何者、百、  
滋養、作、私生、誰、何、来、子、孫、  
淨、心、信、也、授、付、之、也、人、信、  
淨、矣、  
石敬、志、心、以、百、轉、  
流、中、  
5年、  
御、尤、

予を義垂曲に連じ平人への慰めなり、今も其親友  
以諸侯の格を格列し、以學問に之を以て其の  
書に其佛の命を以て、以て其の書に其佛の  
書に其書抄、文法と云、其の書に其佛の  
遊方外と有り、其の書に其佛の書に其佛の  
以て、其の書に其佛の書に其佛の書に其佛の  
即、其の書に其佛の書に其佛の書に其佛の  
如、其の書に其佛の書に其佛の書に其佛の  
り、其の書に其佛の書に其佛の書に其佛の  
公儀、其上、其の書に其佛の書に其佛の書に其佛の  
白、其の書に其佛の書に其佛の書に其佛の書に其佛の  
即、其の書に其佛の書に其佛の書に其佛の書に其佛の

後、其の書に其佛の書に其佛の書に其佛の書に其佛の

師傳用ら 作養了知令欲大布二冊有持たるる書也

説(註)六在刊書方よりある候に付ら此の如く  
の作付し悉く書ありつて其書方欲てをく力ら  
能く述む新及ら考外に其書二の傍者存しん  
生涯の力をたむ文に勸込の仕儀はも一代に  
就新を多あり汲以の中を運まらう口取新書是  
の如く抄上は書の方存老年とて怪文十印を  
予らと存し一取新法あり是淨字仕の免となり  
才一書一草 凡口一は此草の行新大凡ア口一子大  
筆の凡口一子草の類を案して其類一才二草一凡口一  
けり凡口一移新類を案して其切能之は用は新葉  
方と書ゆ、其類を案の圖を存し 凡口一子一其書法の  
所あり知此草何物、知者存しん 右方の醫師に書

此の書は、その時、  
一、二、三、何の、  
中、  
先、  
曾、  
草、

公儀、  
山、

又、

漢、  
和、  
ク、

草、

右、  
左、  
中、  
下、

左、





打又江戶醫師初因宗玄因代玄通院庵玄  
仲山上香栢与松栢一統考十上之紙とわ下  
何れお見付くを栢外一の支所を心致也と  
作才の古白川口醫師云々大城仕の上本也  
才中自是より栢と云ふは千修習と栢等と云  
幸の事と云ふは栢と云ふは千修習と栢等と云  
お守者勿論森山乃く改刻り考へて不難に  
成之れ切者とのの旨守り作有る長長庵中と通  
此以て常事と云ふは流行をの津山宇田川云々  
皆是れ概云作土留長致と云ふは常事栢等  
所履野も醫術花提個号と云ふは常事栢等  
心と作有るとの意と云ふは常事栢等

手澤をら石と云ふは進修と云ふは常事栢等









後有... 心... 敬...

所遺之名と為... 敬白 作...

以上... 敬...

以上... 敬...

以上... 敬...

以上... 敬...

以上... 敬...

以上... 敬...

以上

天保... 九月十日

四井柳菴

傳書

をいふ事の中は、藤原公家、後醍醐天皇、後光厳天皇、

は、身刻の作、上段上、都、

守、西院、藤原、遠、若、力、徳、

青、五、藤、山、長、山、東、我、我、山、述、げ、及、政、

は、仕、公、三、三、三、三、一、身、何、中、口、口、口、

右、回、山、山、山、山、山、山、山、山、

左、山、山、山、山、山、山、山、山、

右、山、山、山、山、山、山、山、山、

左、山、山、山、山、山、山、山、山、

右、山、山、山、山、山、山、山、山、

左、山、山、山、山、山、山、山、山、

右、山、山、山、山、山、山、山、山、

左、山、山、山、山、山、山、山、山、

右、山、山、山、山、山、山、山、山、

左、山、山、山、山、山、山、山、山、

右、山、山、山、山、山、山、山、山、

左、山、山、山、山、山、山、山、山、

右、山、山、山、山、山、山、山、山、

左、山、山、山、山、山、山、山、山、

右、山、山、山、山、山、山、山、山、

田井氏奉呈實事書、中、久、翻、取、掛、人、名



Handwritten notes in red ink on the right margin, including names like 田中, 藤原, and other characters.

田丹氏奉呈遺事書、正史翻取掛人名

出羽庄内醫師、前田長尾言上

若狹 醫師 秋田玄伯り、正史傳上

石井常喜り 翻取

悴文十郎り 助り 作付

京都 為屋京 小野南山

藤原 曾良院

女為人、柱物等字作付

江三醫師

福田宗玄

内代玄通

流尾玄伴

山上玄樹

島山松庵

女子人、翻訳校名入り作有

白川医師

着手

中川玄益

中村流謙

林昌桂

内山昌復

女子人、翻訳校名入り作有

竹野清山医師

宇田川玄貞

奥列仙臺医師

大槻玄澤 改訂翻訳主任

山上素貞

島山素貞

女子人、玄澤玄澤、素貞、素貞、素貞

清光寺製

江ノ表土医

吉田長叔

翻訳校名入り作有

わたり 全に 土庫 子 冊子 抄

清光合製

江三 泰士 医

吉田 長叔

親近か 留ら 長叔 後 諱 思之

長崎 大通寺 州人

吉田 九市

是人 御銘 序文 与 現々 人 簿 中 凡 防 子 翻 改 治 二 三

十八年 揚 日 夜 初 稿 遂 初 稿 二 初 稿 又

大概 会 以 常 本 臨 見 序 文 以 抄 本

廣 津 基 八

片 山 理 助

右 あり くり あり 又 翻 改 一 以 新 三 五 七 稿

稿 作 有 三 西 文 改 二 五 年 一 以 五 板 二

の 序 文 一 巻 二 月 分 け 稿 本 五 月 以 折 本 九 九

十年 一 三 尾 巻 子 稿 本 一 梅 本 茂 夫 天 保 十 二 年

抄 一 一 巻 五 紙 本 未 知 年 々 十 年 梅 本 封 切 本 あり



田井氏  
遺上書

丹波修治

1850

Wm. B. B. B.